

# 質問への回答。

献文舎に寄せられた質問から、適切なテーマを選んで、著者に回答していただくサイトを立ち上げました。

読者や視聴者の質問に著者が答えます。

質問：01。

**空**は「**超実体**」とありますが、超実体って何でしょうか！よく分かりません。

著者による回答。

**空**は直接説明することは不可能です。

しかし、少しでも真実に近づきたいので、ここでは現代用語を駆使して、何とか**空**を理解して頂こうと思います。

そこでですが、「**空**が超実体である」と書いたのは、世の中には既に「実体が無い空」という解釈が半ば固定観念として通用しているという、困った背景があるからなのです。

そこで、真実の**空**を説くためには、先ずこれを正面から否定しておく必要があったのです。

そこで、「実体の無い空」と180度方向が異なるベクトルで否定するために、超実体という造語を生み出したわけですね。

先ずは、「実体の無い空」を「超実体の**空**」で打ち消して、既成概念を取り払って、その後に**空**を説明しようとしたのです。

著者としては「**空**とはこれまで言われてきたような、実体が無いのではなく、超実体である」と言いたいわけです。

さて、これがこの語句を用いた理由なのですが、次に「超実体」の本当の意味を示します。

さて、私たちの住んでいる世界は諸行無常の世界であり、常に移ろい、変化し、生が有り、滅が有る世界です。

これは著者が説明しなくても、初期仏教でも、現代の仏教でも、常識と言って良いでしょうから、著者は敢えてここでこれ以上の説明はしません。

これ以降は仏教の説く諸行無常の世界を「**非実在の世界**」と表記します。

そこですが、その「非実在の世界」の外側に、「空の世界」が存在していて、それが「実在の世界」なのです。

しかし、この言い方は非実在の側から見た表現であり、不自然さが残ります。

より正しくは、「空の世界」は「実在の世界」であり、この「実在の世界」の外側に私たちの住む「非実在の世界」が付いているという表現がむしろ適切と言えるのです。

ところで、「非実在の世界」しか知らないのが私たちです。

ですから、私たちの遣う言語は全て、「非実在の世界」で成立した言語であり、それ以外の知らない世界を表す言語を私たちは持ち合わせていないのです。

語句が存在しないと言うことは「実在の世界」は人類で共有された認識ではないと言うことなのです。

そこで、「非実在の世界」の言語を用いて、「空」という「実在の世界」を表現しようとする、途端に語彙が足りなくなり、適切な語句も存在していないことに気づくのです。

それであっても、現代用語を駆使すれば、多少は「実在の世界」を表現できるだろうと考えて、著者は色々工夫して、何とかして「空の世界」を説明しようとしているのです。

著者は、読者と視聴者に対して言葉の限りを尽くして「空の世界」を多少でも体験していただきたく、こうしてあきらめずに色々表現を試みているわけですが、今日もそれをやってみましょう。

著書に於いて当初は「不生不滅」の解釈は、「空とは永遠性という特質を持つから、今更生まれることも無く、滅することも無い」という解釈を示しました。

しかしながら、これだけではなかなか真実には到達しないし、真の理解は深まらないのですね。

永遠性という語句そのものがもう既に、諸行無常の世界の言葉なのですから。

つまり、「非実在の世界」の中の時間という概念の究極として永遠という語句が存在しているわけです。

ですから、永遠性と言っただけでは、実は正しくないのです。

永遠性とは驚くべき属性ですが、それでも、まだまだ「非実在の世界」の中での「時間」という概念に付いて

いる属性であり、依然として非実在の中での話なのですね。

これだけでは「非実在の世界」からまだ出られていないということなのです。

さてここで、皆さんに「非実在の世界」から一時その外側に出ていただきたいと思って、これを書いているのです。

そこで、皆さんには心を柔軟にして、否定的にならずに、一切の既成概念を取り払って、話に付いてきて欲しいと思います。

何とかして、「非実在の世界」の外側に出てみましょう。

真実としては、「非実在の世界」の語句では到底表しきれない、「実在の世界」の属性というものが存在しているのです。

実在というのは、永遠性という語句の意味をさらに超越したところにある「永遠性の根元」なのです。

著者としては、「非実在の世界」の根元に「実在の世界」があると言いたいのです。

さてそこで、永遠性とは時間軸の中でのことですよ？。

時間軸の端から端までという意味ですよ？。

だから、これではまだまだ「非実在の世界」の中から出られていないのですよね？。

その、どうしてもでられない困った状況はご理解いただけるとと思います。

さてここで、永遠性とは時間軸上の話ですから、話を一つ戻して、「時間」と「時間の根元」との関係を示したいと思います。

般若心経は、空という「実在の世界」が存在していて、その中には私たちの住む「非実在の世界」は存在しないと説いています。

ところで一方、般若心経では、私たちの遣う「非実在の世界」の語句でもって、「実在の世界」の属性を表現しようとして、特別の工夫をしています。

即ち、般若心経では「不生不滅」として、対立する一対の語句を遣い、その両者を同時に否定することで、

「**実在の世界**」の概念を表現するという、実に見事な論法で書かれているのです。

「**非実在の世界**」の 対立する一対の語句を同時に否定することで、「**実在の世界**」の概念を表す方法を、これを二元超越法と呼称します。

私たちは「**非実在の世界**」に住んでいて、それ以外を知らないのです。

知らないのだと言うことをここで確認しましょう。

私たちは「**非実在の世界**」しか知らないのだ、と知ることが、その外側に出るために必要なことなのです。

さらに般若心経では、「**非実在の世界**」と「**実在の世界**」は常に共鳴していて、対応が付いているという重要な真実を説いています。

「**非実在の世界**」が独立して存在しているわけではありません。

「**非実在の世界**」は「**実在の世界**」から強いコントロールを受けて存在していて、しかも、この次元の差を結合しているベクトルにより、両方の世界は対応関係にあると同時に、共鳴関係にもあるのです。

つまり、この「**非実在の世界**」でいう時間という概念は、「**実在の世界**」には存在していませんが、「**実在の世界**」には時間以上の存在が存在しているのです。

それは「時間の根元」と呼ぶべき属性であり、まさしく厳然と実在しています。

根元の意味を、うまく捉えていただけたでしょうか。

どうにか、既成概念の外側に出て、空の世界が少しは見えたとと思うのですが、いかがでしょうか。

つまり、「**実在の世界**」には「時間」を超越した概念が「時間の根元」として存在していて、両者は共鳴関係と同時に、対応関係にもあると言うことです。

ですから、「不生不滅」を永遠性と解釈しただけでは、まだ「**非実在の世界**」から出てはいないので、正確には適切では無いのです。

「時間の根元」という概念が「**実在の世界**」の属性として存在していると言うべきなのです。

時間に縛られた諸行無常の世界が私たちの住む「**非実在の世界**」でした。

そしてその外側に「**実在の世界**」があるかも知れないと、その可能性さえ感じ取れば、それであなたは「**実在の世界**」に一步足を踏み込んだことになるのです。

そしてこれが質問の「超実体」の意味を知ることでもあるのです。

これは、とらわれてがんじがらめになっている既成概念と習慣の想いだけを取り除けば誰にでも出来る事です。

もちろん「時間の根元」一つだけでは「実在の世界」を説明するには不十分です。

般若心経では、**空**の特質を間接的に示す語句として「不生不滅」以外に「不垢不淨」と「不増不減」が有り、計三つの方向から、二元超越法で記述されています。

是非皆さんも、残り二つの方向に関して、二元超越法に立って、解釈してみてください。

結論として、「**非実在の世界**」と「**実在の世界**」は常に対応関係に有り、共鳴関係にあるということになります。

実はこの対応関係を保ちつつ、共鳴関係を創り出すことが般若波羅密多なのですが、これ以上は「現代へのメッセージ／般若心経」を視聴して下さい。

これが「超実体の**空**」のほんの一部の説明ですが、これにより**空**の存在を少しでも確認していただけたとすれば幸いです。

さて、**空**という「**実在の世界**」が説かれた後に、私たち人間の本質は**空**そのものであると、きわめて重大な真実が説かれます。

私たち人間は「**非実在の世界**」に住みながら、その本質は**空**にあり、人間は本来**空**の世界の住人であると説かれるわけです。

これが般若心経です。

ここまでを理解して、是非、「**空の世界**」に心を向けてみてください。

それだけで、**空**の世界と共鳴関係に成り、何か、良い変化がありますよ。

2015/07/12 。。

空不動。

皆さんからの質問をお待ちしています。

これらの文書は献文舎 HP サイトに PDF で残しておきますから、自由にダウンロードして下さい。

回答おわり。